

洛友会々報

吉田區左京市
京都大学工学部
室内教電科
友会

総会来る

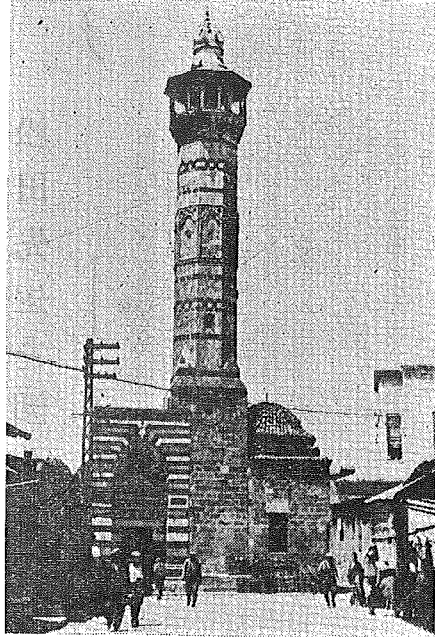
年月の流るゝのは早いものである。洛友会が生れて第六回総会が来る六月三日に名古屋で行われる。

別項案内の通り、誠に至れり尽くせりの行事が盛り込まれている。これは、熱心な中部支部の一と方ならぬ御配慮に依るもので、感謝に堪えない。そして中部支部が常に、よく活動して居らるゝ現われである。

本部總會を各支部所在地に持ち廻ることに、色々と議論はあるが、洛友会の如き同窓会にあつては、持ち廻ることが、その支部の発展に力添えをなし、引

いては洛友会の伸展を来たすこととなる。支部会員にして東京・京都などへは出席不可能の人でも、支部所在地にての総会には出席が可能となる。そして教室の諸先生にお目にかゝり、名のみ聞き知つていた諸先輩に逢うことが出来、クラスメートと談笑出来る喜びは、たとえようもない楽しいことである。

このために支部会員は勿論、他の支部会員の多数の出席あつてこそ、この喜びと楽しみは一層大きいものである。奮つて御参加を熱望する。



寺院 (昭18) 河原勇氏撮影
土耳其アダナにて

人生の大改革

川村進

表題は誠に大袈裟である。併し、事私に關しては、正に大改革であつたのである。

誰しもが味つて居る通りに、私の結婚当初は、甘き夢のような日が続いたのであるが、結婚後三年目の終戦頃には、意見の対立が始まり、時には鏡の如く波静まり、時には暴風雨となつて猛り狂ふことを繰返して、今日に至つた次第である。

她がこの間、妻が口癖のように予防戦を張つて私に言うには「えらい怒つた顔をして居る」とか「眼と鼻の間に皺を寄せて、クシヤクシヤと云つて居る」とか、と半信半疑で「そんなものかな」と半信半疑で聞きながら、その時の状況に應じて応戦して居たのである。

そのうちに不穩の空氣をかもし出すのは、相手に依ることもあるが、自分自身が作つて「サー来い」と待つて居るのではなからうかと感ずるようになった。たまたま、池田書店発行の近藤信緒著「人を見抜く法」を手に入れて熟読して居る中に、最後にこんな文句を見つけ貪るやうに読んだ。

「相手を我が儘にし、威張らせるのも結局半分の責任は自分にあるものだ。」

相手が威張つたら、威張らせたと思え、相手が狡かつたら狡くするやうに水を向けたと思え、相手が怒つたら怒らせるやうに口唇立てたと思え、相手が薄情だつたら、相手を冷かしたと思え、相手が怠けたら、怠けさせたと思ふべきだ。これは身分の上下でもなければ報酬の違いでもない。上に居ても下に居ても相手の態度に半分の責任は誰れにでもかゝつて居る。これをどう捌いて行くか。

か。こゝへは学校でも教えず、本にも書いてないが、ヨシッと決意して立ち向えば誰にでも湧く智慧である。

人と人との関係は相互のもの、決して一方的に出来るものではない。おおよそ、上役のこわい人、主人のこわい人々と言ふものは上役を、主人をそう仕立て、しまつて居るのだ。人の教育は教師だけがするものではない。七つの子供もよく大人を導くことがあるものだ。

我々はこうして人と人とが触れ、軋り合つて居る中に教え、教えられ、特に文字や、語で教えられるよりも、部下の態度、生活方針、仕事のやり方で生きた教訓をされる方が上役の何よりの修養なのである。

絶えず上役をこわがつて居る部下が、却つて上役を導く教師にもなれると云ふことは面白いことではないか。真剣に生きて居る人間というものは、それだけで何かを人に教え、何かの跡を人々の心に残して行くものだ。

部下だから女だから教育が無いから、腕が無いからと自ら卑屈になる位に恐ろしいことはない。自分が墮落するばかりでなく、共々に人をも墮落させる。

教育も、腕も地位も関係無いものゝ中に立派に生き抜く道のあることを、シツカリと肚に置いて、自分の本分に生きる位に強いことはない」として成る程、妻の言うことも宣なる哉、と思つた。

夫婦の争いのスタートは自分も切つて居たのかと言ふことが判つて、争いの信号を送らぬことに、これ努めてみれば、何ん事はない。さしもの争いもピタリと止つたことには驚いた。但し相手からスタートしても、こつちが受け流すことを忘れて

はならない。今年には申歳で縁起が良くないと聞いているが、書物を読んで真似してドンピシャリと言つた点は、年の始めでもあり、私にとつては全く縁起が良いことである。

妻は結婚当初に返つて実によく面倒をみて呉れるやうになつた。この調子で行くと、妻が時々起した肩の凝りとか、腰が痛いと言つた病氣も退散することだろう。正に人生の大改革である。

洛友会員の皆様方、成る程と思われたら真似してやつてみて下さい。申歳に猿真似から拾つた、とんだ縁起かな。と言ふことになれば、申歳でも當つたと言ふものか？

(附二 三 三菱電機名古屋製作所勤務)

雑記

松田長三郎

○本誌前号拙稿中、小柳美一氏が局長である金沢鉄道管理局の従業員は、一、二〇〇とありましたが、一、二、〇〇〇の誤植です。今年には雪が多く度々運転ダイヤグラムが乱れる由新聞で見ると、運転の無事を祈る次第、曾遊の地は懐かしい。

○幾度か袖をしぼつた舞台の「安宅」小柳・西岡両氏の案内をうけて安宅開趾を訪うことが出来たことは忘れ得ぬ思い出である。弁慶の奇智富樫の仁侠、今に人を動かさずにはおかぬ古今を貫くものは矢張り誠。人目を忍ぶ落人主従が、心も暗くトボ／＼と辿つて行つたことあたり、冬と言ふに珍らしい陽気が快るよ、松風は寧ろ爽やかであつたが、暫し懐古の想いに耽つた。

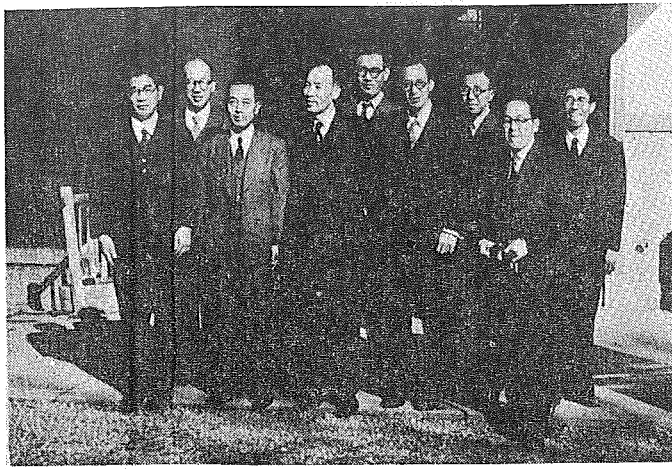
○春来ると言ふのに又しても春季闘争、年中行事のやうに、いつまで同じことを繰返すのであろうか、智慧の無い話。

松田先生を圍んで

金澤での集い

旧臘二日、照明学会北陸支部発会式に御参列のため松田先生が突然御来沢になりました。極く限られた御日程のため、広く支部会員に御連絡出来なかつたのは遺憾でした。然し金沢近在の方々のお参集を得て、前記発会式に御出席の寸前を利し、金沢大学工学部で先生を囲むことが出来ました。

大学を出てから初めてと言う人もあり、懐旧談に尽きる処なく、時間の足らざるをかくちつと名残りを惜しまれました。先生は昨夏腰を痛められて、要杖の御身であり、恙がなき御帰洛を一同祈つた次第です。記念写真は重永実氏(昭二二)の腕に依つたもの。



(写真) 向つて右より

- 田中 信義 (昭一六)
 - 山上 隆也 (昭一〇)
 - 野口 鍊雄 (昭三)
 - 高木 金生 (昭四)
 - 田辺 輝雄 (昭一八)
 - 松田 先生
 - 佐伯 光太郎 (天一〇)
 - 篠原 一恭 (昭九)
 - 西岡 敬二 (昭七)
- この他に橋勝氏(昭一六)が出席されました。
西岡 記

松田先生 敬迎
昭和30年12月2日

野口 鍊雄
山上 隆也
田中 信義
田辺 輝雄
高木 金生
松田 先生
佐伯 光太郎
篠原 一恭
西岡 敬二

○今年も又、新卒業生を送り、新入学生を迎える季節が近づいて来た。年々歳々花相似たり、歳々年々人同じからずの感を深くする。若き力は国を興す力、自愛と健闘を祈つてい

会報編集の改革について

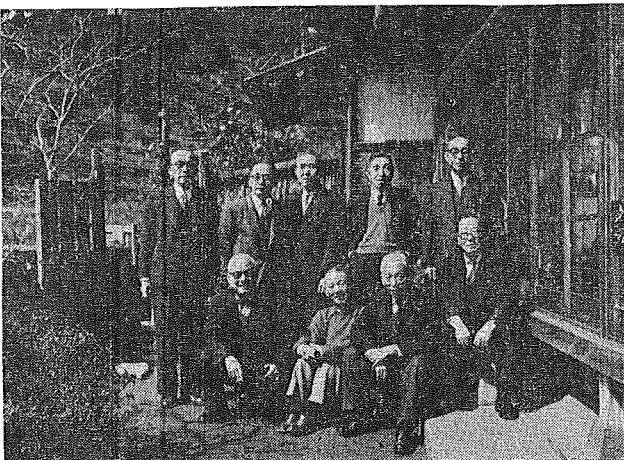
昭七 田村 博

拝啓、会報の編集に關して苦言を呈することを御寛容下さい。二月一日付の会報を再び手にして本日拝見しているのですが、会費領収報告が一百以上の紙面を占有しているのが如何にも目ざわりです。斯く領収報告をすることも会費の徴収の一助となることも理解出来るが、その方法を例えれば次記の如くにして紙面を節約する方法はないものでしようか？御検討下さい。幸甚です。

- 一、氏名は姓だけで名を省略する
- 二、卒業年次は学士会名簿に依り、活字をもう一つ小さいものを使う

等々のことで一段四名は記載出来、紙面も多くと二分ノ一頁か三分ノ一頁に圧縮し、その代り他の記事を增加させて欲しいものです。草々

○
お答え申し上げます。先づあなたが会報を再び手にして御覧になり、尚改革意見をお寄せ下さいました御好意に対して厚く感謝致します。領収報告をすることが会費徴収の一助となることを御理解下さい。尚、私共は斯くすることが会費納入の状況より見て会費徴収の大なる役割をしていると考えるのです。これを数字で申上げますと、三十九年度会費は会報の発行される度毎に納入がありまして、その中間は殆んど無く、三月十日現在、納入者は



北陸支部
大正8+9+10
於 金沢市
三月八日

田村 博
野口 鍊雄
山上 隆也
田中 信義
田辺 輝雄
高木 金生
松田 先生
佐伯 光太郎
篠原 一恭
西岡 敬二

前回総会において次回総会は名古屋にて開催することに決定いたしました。中部支部においてはこれを快諾され清水支部長、本多副支部長並びに支部会員多数の御熱心な立案により次の如く計画されました。その御好意に対しましても会員多数の御出席を切に希望いたします。

中部支部長 清水勤 二

世界の名勝日本ラインー日本アルプスの雪を溶かした木曾川の清流、瑤壁奇岩の間を奔騰する激流と白泡、これに乗つて下るライン下りは、けだし天下の快遊であります。

第五回洛友会總會通知

本年の洛友会総会は中部支部で行われることになりましたので、まず日本ライン下りをして野猿の奇声をききつゝ初夏の清快を味はつた後、犬山橋畔城山荘で総会と懇親会を行うことになりました。城山荘は木曾川に臨む断崖の上にある珍らしい料亭で、高さ約百尺をエレベーターで上下し、アルプスの白雪や尾三の平野を遠望し、脚下に清流を俯瞰して夜となればこれに鶴舟が篝火を挙げて流れます。中部支部の会員は下記のプロگرامの下に総力を挙げて計画準備し、多数会員の御来名をお待ちしております。

情を温められんことを。

プログラム

- 一、日時 六月三日(日)
- 二、総会および懇親会場 犬山城山荘
- 三、日本ライン下り

(第一班)

六月三日十一時二十分バスにて名古屋駅発(上り急行霧島を待つて)ー十三時今渡着ー十三時十分今渡から舟で日本ライン下り(舟中にて弁当配布)ー十四時四十分犬山着(散策、囲碁、麻雀、入浴)

三、その他

五、懇親会 十八時三十分より

(余興) 西川流踊、犬山音頭、福引その他

六、散会 二十時三十分の予定

七、会費

昭和十年以前卒業の方 七〇〇円

昭和十一年以後卒業の方 五〇〇円

別紙振替用紙をもつてお払込み下さい。振替用紙の裏面に御参加および御希望の詳細を記入して

五月十日までに到着するように願います

なお城山荘宿泊料は八〇〇円(朝食付)の予定です。

宿泊してなお一日行楽する人のために

は次記のプログラムを予定します。但し希望者が少ないときは取りやめます。

六月四日プログラム

A、ゴルフ大会 東山ゴルフ場

(幹旋 小野恒造氏)

B、圍碁大会

(幹旋 本多静雄三段)

C、名古屋市内見学(テレビ塔、放送局、美術館、東山公園等)

(幹旋 川端太郎氏)

(議案)

四、総会 十七時四十分より

一、事務竝に会計報告

二、役員改選の件

東西の洛友諸兄!!ぜひ来たつて中部日本景観の偉容を賞味しつつ鳥養会長初め諸先生と共に洛友の交

